

「神が私たちに望む三つのこと」
テサロニケ人への手紙第一 5章 16～18節

はじめに

今朝は、収穫感謝記念礼拝です。この教会では、例年ですと、野菜果物などを持ち寄って講壇の前に置き、神がお与えくださった一年の恵みと祝福を感謝します。今年は、コロナの影響で、持ち寄りは中止しましたが、一年を振り返り、神の恵みと祝福を感謝しましょう。

今年の教会は、コロナの影響もあって、新来者も少なく、受洗者や転入会者もいませんでしたので、収穫は少なかったかもしれませんが、今朝は私たちの信仰の成長という点での収穫はどうであったかを振り返ってみましょう。

テサロニケ人への手紙 5章 16節から 18節に、神が私たちに望んでおられる三つのことが勧められています。それは「いつも喜んでいなさい」「絶えず祈りなさい」「すべての事に感謝しなさい」です。他にも神が私たちに望んでおられることはありますが、ここにわざわざ「神があなたがたに望んでおられることです」とあることは、私たち信仰者にとって、これだけは欠かしてはいけない、生活の基本だということです。

1 いつも喜んでいなさい (16)。

「笑う門には福きたる」「笑いは健康にいい」などと言われ、笑うことは大変いいことと考えられています。

笑いと喜びは、同じようでもちがいます。笑わなくても喜びはありますが、喜びがなくても笑えます。

聖書は「笑え」と言わずに、「喜べ」と教えます。

イエス様に出会う喜び。

先ずは、イエス様に出会ったことの喜びです。人生でいろいろな人と出会いますが、イエス様に出会うことが出来た喜びはほかにあるでしょうか。イエス様はこう言われました。「わたしは再びあなたがたに会います。そして、あなたがたの心は喜びに満たされます。そしてその喜びをあなたがたから奪い去る者はありません」(ヨハネ 16:22)

名前が天に書き記されている喜び。

次は、私たちの名前が天に記されている喜びです。イエス様は、弟子たちが宣教の成果をイエス様に報告したとき、彼らにこう言わ

れました。「ただあなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」(ルカ 10:20)

祈りが聞かれる喜び。

次に祈りが聞かれら喜びがあります。イエス様はこういわれました。「今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです」(ヨハネ 16:24)

試練の中での喜び。

さらに、試練の中にあっても喜ぶ喜びがあります。ペテロは、ペテロの手紙第一でこう言いました。「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見ていないけれども信じており、ことばに尽くせない栄に満ちた喜びに躍っています。あなたがたの信仰の結果であるたましいの救いを得ているからです」(1ペテロ 1:8-9)

聖書は、ただ「喜びなさい」と言っているのではありません。「いつも喜びなさい」と言っているのです。あなたはいつも喜んでいますか？

適用：イエス様に出会い、名が天に記され、祈りが聞かれ、たましいの救いを得ているなら、どんな試練や苦しみや悲しみの中にあっても、喜べるのではないのでしょうか。

2 たえず祈りなさい (17)。

祈りについては、二つのことを心に留めましょう。

① 神との交わり。

祈りは、神様との交わりです。神様は、聖書を通して私たちにお語りになり、私たちは祈りによって神に応答します。こうして私たちは神と交わるのです。クリスチャンの喜び、満足、平安は、この神様との交わりから得られます。

例話：「屋根の上のヴァイオリン弾き」という映画があります。ロシアに住むユダヤ人たちの生活を描いた物語です。主人公のテレビエは、

牛乳配達をしています。彼は、牛乳を乗せた荷車を引きながら、いつも天を見つめて、ぼそぼそ話しています。神様に祈っているのです。生活に起こる様々なことについて、神様と話しているのです。つまり、彼はいつも祈っているのです。

② 求めに答えて下さる。

神様は祈りに答えてくださるのです。イエス様はこう言われました。「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます」(マタイ 7:7)。

パウロの勧め。

使徒パウロはこう勧めています。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます」
(ピロ 4:6-7)

祈りによって、私たちは神様と交わり、自分の必要を神様に求めることが出来るのです。ですから、「絶えず祈りなさい」と勧められているのです。

3 すべてのことについて感謝しなさい (18)。

最後は、「すべてのことについて感謝しなさい」です。なぜ、すべてのことに感謝できるのでしょうか。

① 恵みが十分である。

それは、「神の恵みが私たちに十分だから」です。私たちの生活には、何が起こるかわかりません。病気になる。経済的に苦しむ。人間関係で悩む。キリストを別として、使徒パウロはほど苦しみに会った人はいないでしょう。彼はその経験を第二コリト 11:23-29 でこう語っています。

その中でも特に苦しかったのは、肉体に与えられたトゲでした。あまりの苦しさに、パウロは3度「これを私から去らせてください」と主に願いました。そのときの主の答えはこうでした。「わたしの恵みは、あなたに十分である。わたしの力は、弱さのうちに完全に現れる

からである」でした（Ⅱコリント 12:8-9）。それで彼は、「ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」と言ったのです。

どんなときにも、主の恵みは十分に与えられているのですから、感謝しましょう。

② すべてを益に導いてくださる。

次に私たちが神に感謝できる理由は、神がすべてのことを私たちの益となるように導いてくださるからです。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」（ローマ8：28）。

どんなことでも、神様は結局、私たちの益になるように導いてくださるのです。試練にもそこから逃れる道を備えていてくださいます。「あなたがたの会った試練は、みな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます」（Ⅰコリント 10:13）。

ヘブル人への手紙ではこう教えています。「すべての訓練は、そのときは、喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、それによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます」（ヘブル 12:11）。

ですから、私たちは「すべてのことについて感謝できる」のです。

まとめ

神様は私たちに、「いつも喜び、たえず祈り、すべての事について感謝すること」を求めておいでになります。でも、「私には出来ない」と考えないでください。あなたにも出来るのです。それは、聖霊があなたとともにいてくださるからです。使徒パウロはこう言っています。「御霊も同じように、弱い私たちを助けてくださいます。私たちはどのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください」（ローマ8：26）

聖霊によって、私たちは、「いつも喜び、絶えず祈り、すべてのことに感謝する：生活ができるのです。いつも聖霊の助けを求め、聖霊に満たされて歩みましょう。